

令和2年度(2020年度)第1回北海道環境審議会(書面開催)委員意見等

- (1)資料1 水環境部会における指定事項に係る調査審議結果(報告)
特に意見なし
- (2)資料2-1 令和元年度(2019年度)北海道環境審議会温泉部会 開催状況
特に意見なし
- (3)資料2-2 令和元年度(2019年度)第4回北海道環境審議会温泉部会 議案一覧
特に意見なし
- (4)資料2-3 令和2年度(2020年度)北海道環境審議会温泉部会 開催状況
特に意見なし
- (5)資料2-4 令和2年度(2020年度)第1回北海道環境審議会温泉部会 議案一覧
特に意見なし
- (6)参考資料 温泉法の規定に基づく許可申請について

	委員名	項目等	意見概要	対応方針
1	小林委員	答申内容	令和元年度第4回温泉部会の答申内容における議案番号47、令和2年度第1回温泉部会の答申内容における議案番号10及び11について、附帯意見④がないのはなぜか。	附帯意見④は、動力装置許可の申請を行うまでに揚水試験・影響試験の実施を求める内容となっており、掘削許可の段階の議案に附される意見となっている。ご指摘の各議案は動力装置許可の段階での議案であることから、附していないもの。
2	鈴木委員	答申内容	・令和元年度第4回温泉部会の諮問において、備考欄に準保護地域とあるが、どの法令に基づく何の準保護地域か。 ・温泉掘削による保護対象への影響についてどのように審査したのか教示いただきたい。	・「準保護地域」は北海道温泉保護対策要綱の規定であり、申請地点は既存源泉から周囲500m以内の掘削を認めないこととされている。 ・本議案は、現在利用している源泉の代替掘削であり、周囲500m以内に既存源泉が存在しなかったことから、許可相当と判断された。

- (7)資料3-1 【概要】令和2年度(2020年度)北海道環境基本計画[第2次計画]改定版に基づく施策の進捗状況の点検・評価について

	委員名	項目等	意見概要	対応方針
1	愛甲委員	計画の進行管理	・定期的に点検・評価を行うと記載されているが、毎年実施するということが。 ・第三回審議会では、第3次計画の答申素案が審議される予定であり、その前の企画部会などで、今回の点検・評価と、平成28年度の改定以降の推移を確認できれば、施策や指標群の議論の参考になるのではないか。	・点検・評価は、毎年実施している。 ・今年度の点検・評価については、第3回審議会(10月頃)にて、とりまとめ結果を報告する予定であるため、その前に開かれる企画部会で議論することはできないが、「平成28年度の改定以降の推移」については、令和元年度第1回企画部会に提出した参考資料「北海道環境基本計画[第2次計画]改定版の目標と達成状況」に掲載しており、引き続き企画部会での議論の参考とする。

- (8)資料3-2 令和2年度(2020年度)北海道環境基本計画[第2次計画]改定版に基づく施策の進捗状況の点検・評価について

	委員名	項目等	意見概要	対応方針
1	鈴木委員	全体	近年、日本では水関係の大災害が頻繁に発生していることから、北海道でも、既存の北海道環境基本計画[第2次計画]の進捗状況の点検・評価にとどまらず、水関係の災害を防止する観点から、新たに何らかの計画見直しをする必要があるかどうか、森林・河川・湖沼・海岸等の管理担当部局を中心に確認すべき。	令和元年5月8日の審議会において環境基本計画の見直しについて諮問し、現在、企画部会において調査・審議が行われているところであり、その中で近年の大規模災害などの状況を踏まえた記述の見直しについても検討する。
2	白木委員	P1(4)枠内総合的な評価について	・「…他の分野で別の環境影響を発生させる場合もあるため、…総合的な評価を行う。」とあるが、異分野間の施策実施に伴って生ずる他分野での悪影響を評価するための指標や評価基準について具体的に検討すべき。 ・同じ分野内の施策においても、互いに悪影響を及ぼす場合があり、背反項目の抽出と評価基準の設定が望ましい。	・事業ごとに点検・評価を行った結果を、32施策ごとに振り分けた上で、施策に対して他分野の視点から二律相反などの意見を3つの社会(低炭素社会、循環型社会及び自然共生社会)構築の観点から出した上で評価している。 ・上記のとおり他分野の視点からは、背反項目などを評価しているが、同じ分野内においては、課題抽出や方向性に関する評価にとどまっているため、同じ分野内の背反項目の評価方法などについては、今後の課題として検討していきたい。

- (9)その他

	委員名	項目等	意見概要	対応方針
1	白木委員	-	メール文の議事の欄に、「北海道環境基本計画[第3次計画]」の策定について、と書かれていたが、これについての資料がなかった。	次第に記載したものが正しい議題であり、メール文の記載が誤っていたため、今後同様のことが起きないように徹底する。
2	白木委員	要望	・今後もコロナ感染による影響が続くようであれば、議事や資料に関する説明や主に何を議論すべきなのか等を記載してほしい。 ・できればオンラインでの開催を検討してほしい。	・資料について説明する参考資料は添付していたが、何について議論するのかなど内容をより明確に記述するよう努める。 ・対面形式での開催が難しい場合は、オンラインで開催するよう努める。